

「公衆電話を使ってもっと街を便利に」

はじめに

みなさんは最近、公衆電話を使った記憶がありますか？また、自信を持って公衆電話が「あそこにはある！」といえますか？今では、携帯電話などの普及で公衆電話は使われなくなり、年々その数は減少し、探そうと思っても最近はなかなか見つけることができなくなってきました。

しかし、公衆電話は緊急時にはとても重要な物に変わります。例を挙げると、

- ・警察や救急車を呼びたいが今自分がいる場所の住所がわからない時、公衆電話からかけると警察等は、どこの公衆電話からかかってきたかわかります。
- ・災害時、携帯電話が使えなくなっても公衆電話は使えます。
- ・山間部など携帯電話の電波の届かないところでも使えます。

このように、公衆電話はいざという時のために必要なものなのです。

では、なぜ公衆電話はなくなっていくのでしょうか。それは、利用者の減少によるコストの増大です。このため、ほとんど使われていない過疎地域や山間部の公衆電話がなくなっているのです。

そこで、この問題を解決するために公衆電話に電話機能のみではなく、いろいろな便利な機能を付けることによって、多くの人が集まる都市部にある公衆電話で利用者を増やして利益を上げていき、その利益でもともと人が少ない過疎地域や山間部にある公衆電話を維持し、同時にもっと街を便利にしていくことを提案します。

提案内容

特に町中にあるボックス型の公衆電話について考えています。

- 携帯電話を充電できる装置を取り付ける。

携帯電話をある程度充電しようとする時、時間がかかってしまうため、お金を入れた分の時間だけ充電できるようにします。携帯電話は最低でも充電している間は使えるようになるので、その間に携帯電話に登録している電話番号を控えたり、メールを送ったりすることができ、番号さえわかればあとは公衆電話を使って自由に電話をすることができます。

- 電話ボックス内にネットワークにつながったコンピューターを設置する。

画面はタッチパネルにし、主に周辺地域の情報を提供します。料金は時間単位ではなく、情報量単位とし、そうすることによって、初めて使う人やコンピューターが苦手な人でも時間を気にせず使うことができます。

- ・地図検索

周辺地域の地図を検索でき、また公衆電話から目的地までのナビゲーション機能を付けます。場所によって印刷機能があるともっと便利になると思います。初めて訪れた街では周辺の地図を見つけること難しいため、この機能があれば目的地をすぐに見つけることができます。

- ・天気情報

公衆電話のある場所の局所的な天気情報の提供。その地域の数時間後の天気がわかれば、後の予定も立てやすくスムーズにその街を楽しむことができます。

- ・地域情報

公衆電話のある地域で行われているイベントや、その周辺の店や会社の情報提供。自分の欲しい物を売っているお店がどこにあるかや、病院や公共機関の営業時間などがわかり、お店を探し回るなどの無駄な時間をなくすことができます。

- ・インターネットへの接続

持ち込みのパソコンなどからインターネットへの接続ができる。上記の情報だけでは物足りない人や、情報を記憶しておきたい人に便利です。また、わざわざインターネットができるお店などを探す手間がはぶけます。

○電話ボックスの外側に液晶画面をつける。

この画面は主に広告を表示させるためのもので、広告主は周辺地域の商店などです。

- ・スーパーの広告を表示する。タイムセール等の宣伝をリアルタイムで周辺の人に知らせることができる。
- ・災害時の注意報等を表示する。災害時に外にいる人は何も知らないことが多いので、避難警告や交通情報などを表示することによって、すぐに周辺の人に知らせることができる。
- ・地域活動を表示する。市や県が行っているイベント事や、募金活動、署名運動などの活動もこの方法を使えば、より多くの人に知ってもらうことができる。

以上の機能は基本的なもので、公衆電話のある場所によって違った機能を付けていけばいいと思っています。バス停の近くにあるなら、発着時刻検索などの目的地を入力するだけで、どのバスに乗ればいいのかや、乗り継ぎの方法を知ることのできる機能を付けたり、公園の近くにあるなら、子供たちのために時刻を音声で伝える機能を付けたり、まだまだいろいろなことができると思います。

まとめ

公衆電話は電話回線と電気が通っている便利な物です。一からつくるのは大変ですが、今ある公衆電話もっと利用していくと、今まで以上に便利な街になると思います。